

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会科学系】

課題の提出やレポートの内容、授業態度などを含めて、総合的に評価した。

レポートの場合、限られた字数の中で、与えられたテーマについてバランスよく例を挙げながら説明できているかどうかを重視している。

総合評価、授業参加度合い、出欠、学生たちによるグループ発表、テスト

以下の①～④を合計して、成績を評価しました。

①2017年度前半5回に渡った全体講義の授業の参加と感想用紙の提出の合計

②読書シート(「あらまし読み」シート)の量的評価(7枚以上)と質的評価の合計

③中間レポート(1冊の本を読んだブックレビュー)の表現形式評価

④最終レポート(2冊の本を読んだ比較レポート)の質的・量的評価

シラバスに書いた通り、平日成績(40%)と期末テストの成績(60%)を合わせて評価しました。

各授業の最後にやっていただいた課題と、定期試験で評価した。

予習および平常点(20%)と期末試験(80%)

小テストおよび平常点(20%)と期末試験(80%)

平常点(提出物、授業の参加度、出席) 40%、第1回～第5回のミニレポートと授業時の集中ライティング 20%、最終レポート 40%
を総合して評価しています。

出席回数、小テストの結果、学期末試験のスコア、プレゼンテーションの際の受講生の英語の発音、イントネーション、表現力、授業への貢献度などを考慮しつつ総合的に判断した。一発勝負の試験だけで判断するのではなく、個々の学生を多面的に評価することを考えてのことである。

成績評価の基準は初回の授業で学生に説明した通りである。

出席点(20%)、グループ発表の評価(30%)、期末レポートの評価(50%)

期末レポートの評価は、十分な資料収集、説得的な論旨に加えて「自国の文化との比較」の視点が踏まえられているかどうかを基準とした。

成績評価の基準は初回の授業で学生に説明した通りである。

出席点(20%)、授業内での質問(20%)、期末レポートの評価(60%)
期末レポートの評価は、教科書や授業内容等の理解を前提として、課題に対する自己の見解を説得的に論述できているかどうかを基準とした。

定期試験による。学内の成績基準に準拠している。

2回の筆記試験、TOEICの成績および出席状況

3回の筆記試験および出席状況

基本的には、使用した教科書を完全に理解しているかどうか、また補足的に行っている英語発話・作文法の基礎的な理解が出来ているか、期末試験によって考査した。

主要12動詞のみを使う独自の英語発話法の基礎的な理論をしっかりと理解できているかを評価基準とし、期末試験による考査を行っている。

少人数(16名)の授業であったので、授業中の発言・討論への参加度(積極性と内容)や、課題(たとえば、博物館の実物資料の中から関心を見出し、情報収集する)への取り組みの内容から評価した。

出席(10%)、提出物(30%+20%)、定期試験(20%+20%)の合計点です。

後期試験(筆記テスト)を中心に成績をつけたが、これだけでは欠点で落ちる人が多く、小テストの成績も加味して、点数をつけた。望ましいのは、口頭試問を取り入れることであるが、クラスの数が多いため、断念せざるを得なかった。

定期試験の成績60%、小テスト(単語テスト)の成績20%、TOEICの成績10%、授業参加度10%で総合的に評価した。

実技テスト2回・ペーパーテスト1回の総合点が60点を上回る学生を基準に単位・成績決定を行った。話す・聞くなどメインに言語の4技能のどれか本人に合っているものを磨けば単位が取れるような仕組みにした。

成績は、シラバス掲載の通り、平常点(授業の参加度、提出ノート)20%、TOEIC点数20%、e-learning課題20%、授業内試験40%の合計点で、結果を出した。

クラスサイズが、コミュニケーションのクラスにしては多いので、試験を基本に、平常点が観察される学生に関しては、その点をプラスしました。

出席、授業参加度、小テスト6回(40%)、期末テスト(60%)
ただし、TOEICのテスト結果が合格ラインに満たなかった学生に対しては、大学の成績処理方法に従って成績を付けた。

最終試験:スピーキング(40%)、筆記小テスト2回(20%×2)、出席及び授業参加度(20%)

期末試験、時事問題についてのレポート、コメントシートに示された考察と授業参加の度合いの3項目により評価。配点は各々3分の1。